

カトリック神戸中央教会 (旧中山手カトリック教会)



現教会内部 (写真は教会所蔵) ↑→

パールストリートとハンター坂の交差する東南角にあるこの教会は神戸最初のキリスト教会の流れをくんでいる。1868 (明治元年)、神戸にやってきたはじめての宣教師はフランス人ムニクウ神父で、彼は神戸で最初のミサをフランス軍艦デュプレクス号で行なったといわれている。



また、当時まだキリスト教は禁制の時代で、その中を彼は元町通沿いの仮聖堂で毎日曜にミサを行っていたという。1870 (明治3)年に彼は居留地の37番 (現大丸の一角) にカトリック教会を建てたが、その翌年彼はこの世を去っている。1923 (大正12)年、カトリック教会は現在の位置に移され、中山手教会と呼ばれた。この建物は戦災にあって全焼し、1956 (昭和31)年に再建されたが、大きなステンドグラスが非常に美しい建物であった。

阪神・淡路大震災で建物が半壊し、2000 (平成12)年に元の建物を取り壊し、新たな建物を建設することを決定した。区内では同じ系列の下山手カトリック教会 (市内最古の教会建築) が震災で全壊したため、今回の再建は、中山手、下山手両教会を統合する形で行われることになった。さらに、両教会に灘区の灘教会も統合、新たに生まれ変わる教会の聖堂はもとの中山手カトリック教会の雰囲気とは一新し、箱船をイメージしたもので「カトリック神戸中央教会」と名付けられ、2004年秋に完成した。

場所：中央区中山手通 1-28-7



外観

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著